種出蘇敬注、麥斛狀似大麥、出穡疑、石斛者山精也、出范注方、又石精也、出神仙服餌方、和名須久奈比古乃久須禰、一名以波久須利。

〔倭名類聚抄二十草〕石蔚　本草云、石蔚、胡谷反、和名須久奈比古乃久須禰、一云以波久須利。

〔箋注倭名類聚抄草〕按廣韻、蔚石蔚、然說文所無、蓋俗字也、本草云、生六安山谷水傍石上、陶注云、生石上、生櫟樹上者名木斛、其莖形長大而色淺、蘇注云、江左又有二種、一者似大麥、累累相連、頭生一葉、名麥斛、一種如雀髀、名雀髀斛、葉在莖端、其餘斛如竹、節間生葉也、圖經云、五月生苗、莖似竹節、間出碎葉、七月開花、十月結實、其根細長黃色、衍義云、石斛若小草、長三四寸、柔韌、折之如肉而實、今人多以木斛混行、木斛折之中虛、如禾草長尺餘、但色深黃光澤而已、李時珍曰、石斛叢生石上、其根糾結甚繁、乾則白軟、其莖葉生皆青色、乾則黃色、開紅花、節上白生根鬚、人亦折下以砂石栽之、或以物盛挂屋下、頻澆以水、經年不死、俗稱爲千年潤、石斛短而中實、木斛長而中虛、

〔類聚名義抄八艸〕石蔚　スクナヒコノクスネ

〔多識編二石草〕石斛、須久那伊、○伊恐比誤　古乃久須禰、

〔古今要覽稿草木〕すくなひこのくすね　いはとくさ　石斛

すくなひこのくすね一名いはくすり、一名みたから、一名いはどくさ、一名ちくらんは、漢名を石斛、一名林蘭、一名杜蘭、一名千年潤、一名長生草をいふ、古者出雲國諸郡に產するよし、其國の風土記にみえ、伊豆、下野、陸奥、美濃、紀伊、備後、安藝、丹波、但馬、伯耆、周防等より、これを貢せし事、延喜式にみへたり、今は豐前、伊豫、筑前、攝津、土佐、薩摩等の山中にも、往々これあり、其狀大略木賊に似て寸寸節あり、內實して肉の如く、長さ三四寸、或は六七寸、其頭細竹葉に似て稍厚き兩三葉を生じ、白花を開く事、建蘭の如し、憶に此種は紹興本草圖する所の、溫州石斛を全く同種なるべし、又一種淡紅花のものあるよし、物類品隲及び本草啓蒙に見へたれど、本草綱目に、石斛開紅花といひ、ま